

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

国内子ども支援の現場から

「みんなのへや」 夏休みの様子

ワールド・ビジョン・ジャパンが日頃から行っている放課後の子どもの居場所「みんなのへや」。今年も夏休み中は週に2回、時間も拡大して開催しました。2か所で合計10回開催し、延べ83名が参加しました。8月末には今年もスイカ割りと花火を楽しみ、夏の思い出がまたひとつ増えました。



世界のごはん タイ料理「カオマンガイ」

～ おいしい時間たのしい時間 ～

調理室のある会場では、今年もランチクッキングをしました。子どもたちはおとなと一緒にフルーツを切ったりと、調理にも挑戦しました。あらかじめメインメニューは決めつつ、うどんの日は蕎麦も用意しておくなど、選択肢はできる限り広げました。それぞれが好きな具材を工夫しながら盛り付けると、まるで違う料理みたいに見えてきます。友達の仕上がりのをのぞき込む姿も印象的でした。「きゅうりは丸ごとそのまま食べられる」「えー何もつけないの?」と食の好みの違いにも興味がわき会話がはずみました。「みんなのへや」ではこの「食」を通した楽しみの時間を大切にしています。メニューを考えるのは骨が折れますが、なにより子どもたちの笑顔が原動力になっています。



冷やしうどん



かき氷のトッピングも個性満載!

こちらでも毎年恒例となっている、地域の町会会館をお借りした「夕涼み会」。今年は規模を縮小しての開催でしたが、スイカ割りと花火をみんなで楽しみました。スイカ割りはインターンさんのアイデアからチーム戦に。スタッフも一緒に挑戦し、スイカが割れた瞬間には大きな歓声が上がりました。夕方からの花火は初めて体験する子もいて、最初は怖がっておそるおそるといった様子でしたが、



おいしくいただきました

最後にみんなでやった線香花火では一番長く楽しみ、とても良い笑顔を見せてくれました。親子で参加した保護者の方からは、「なかなか持てない貴重な時間をありがとうございました」との感想をいただきました。

工作に夢中になりました



「みて、熱いうちにねじって作った」



キャラクターのプラバンを熱心に作っています

夏休みの開催は時間も長いため、みんなでなにかにじっくり取り組むには絶好のチャンスです。子どもたちが好きなこと、楽しんでもらえるものを！と相談し、いくつかのお楽しみを準備しました。ひとつ目は昨年末に好評だった**プラバン制作**です。1枚の中にとても細かい絵を描いてまるでステンドグラスのように仕上げる子ども、昆虫や魚の絵を何枚も書き、じゃらじゃらと下げるキーホルダーにする子どもと、自分らしさを発揮して楽しみました。ある日には「くまモン」のプラバンを作り、熊本支援へ向かうスタッフへたくしました。みんなで作った「くまモン」は、表情豊かなものになり、熊本の子どもの居場所でも喜んでくれたそうです。



みんなで作ったくまモン

続いて、**パラコードを編んだストラップづくり**にも挑戦しました。スタッフは事前に全員で練習し、「この紐をここに通して...」と仕組みを理解して何とかできるようになったのに対し、



ボトルホルダーも作れました

子どもたちはあっという間にマスターして、どんどん仕上げていきました。子どもたちの飲み込みの速さに驚かされたひとコマでした。

そしてこの夏の目玉企画は、はがきサイズのキャンバスを使った**油絵**です。普段はなかなか触れることのない画材を体験してほしいという思いから企画しました。絵の具を水ではなく油で溶くことを知り、「え、そうか、そういうことか」と目を丸くしていました。絵の具が腕について大騒ぎしながら、体でも粘度の高い画材の感触を知りました。黒いキャンバスに描いた鮮やかな太陽、何色も混ぜた自分だけの色の空など、とても美しい色彩の作品となりました。



白と黒のキャンバスを用意しました

普段から工作好きの子どもが多い「みんなのへや」ですが、この夏はじっくり取り組む時間ができて、スタッフが知らない一面をたくさん見せてもらいました。子どもたちの豊かな発想を大切に、これからも楽しい時間や体験が生まれる「みんなのへや」を続けていきたいと思います。



ぜひおうちに飾ってほしいです

～スタッフからひとこと～

今年の夏は7月末に熊本地震が起きました。ちょうど「みんなのへや」開催中のできごとでした。急遽スタッフ2名が熊本入りし、「みんなのへや」の人手が足りない！開催は難しいか...とあきらめかけました。しかし、こんな時だからこそ子どもたちが安心して過ごせる居場所をつくりたい。その熱い思いとたくさんの方の協力により、なんとか10回の開催を終えることができました。子どもたちからも現地入りしているスタッフへの温かいメッセージをもらい、どんな時も「みんなのへや」を開くことの意味を改めて感じました。これからも子どもたちとともに歩んでいきます。

(村上・山下)



「みんなのへや」の夏の風物詩です

